

# S クリートセラ漆喰調

特殊水性シリケート系漆喰調無機質塗料

## 施工要領書

**BIRCS**

株式会社バークス環境

## 概 要

Sクリートセラ漆喰調は、特殊な水性シリケートを主成分とする漆喰調の高耐久性無機質外装仕上げ材です。天然漆喰調の自然で穏やかな風合いが特徴です。

また、Sクリートセラ漆喰調は遮熱顔料を使用することで、遮熱性能を付加させております。

## 特 長

- 1、水性無機質塗料ですので、臭気が無く安全です。
- 2、超速乾性です。1～2時間で乾燥します（20℃）。
- 3、プライマーとしてSクリートアップ（コンクリート改質・強化剤）を併用することで強固にコンクリートを保護できます。
- 4、無機質塗料の為、紫外線劣化が少なく、また塗膜表層に帯電しないので、長期に美観を持続します。
- 5、無機高分子シリケート成分で形成されている為、防水性、通気性に優れ、コンクリートを長期間保護できます。
- 6、リコート性に優れており、漆喰壁や一般塗装面への再塗装などリフォームに最適です。
- 7、標準色は15色です。
- 8、浸透定着型ですので、樹脂系プライマー処理の必要はありません。
- 9、不燃認定材料です。不燃認定番号：NM-5539
- 10、ホルムアルデヒドの放散は全くありません。

## 施工可能な素地

コンクリート・モルタル・漆喰壁・土壁・樹脂系塗料等

## 施工前確認事項

- 1、下地の汚れ、カビ、レイタンスは高圧洗浄等にて除去してください。酸洗いをした場合は必ずアルカリ中和処理をしてください。アルカリ中和処理は弊社にて、SCクリナーをご用意しております。
- 2、雨天時の施工は避けてください。施工可能な気温は5度～35度です。
- 3、クラック・ジャンカ・爆裂などは事前に補修してください。クラックや表層劣化は弊社Sクリートクラック工法にて補修することをお勧めします。
- 4、下地にフッ素系クリアーが塗布されている場合は付着しませんので、サンダーにて除去してください。

## 施工用具

ローラー（短毛・中毛ウーローラー・マイクロファイバーローラー）・刷毛・バケツ・ハンドミキサー・計量器等

## 施 工

### 1、養生

ガラス、アルミサッシ、金属、その他一般的な養生をしてください。

### 2、下地処理

- ・カビ、藻、レイタンス等は高圧洗浄して除去してください。
- ・コンクリート、モルタル下地の場合はSクリートアップを塗布することをお勧めします。 塗布量：200 c c /m<sup>2</sup>  
(Sクリートアップはプライマー効果と同時にクラック抑制、エフロ抑制に効果を発揮します。)
- ・クラックはSクリートクラック工法（別紙仕様書参照）にて補修してください。
- ・爆裂補修はペガサビン（浸透性防錆材）を使用し、セルガード工法にて補修してください。（別紙説明書参照）

### 3、調合

調合は16Lペール缶に対し無希釈か清水を5%まで混入可能です。別途粉体調色顔料を混入し、ハンドミキサーにて十分に攪拌してください。

### 4、本施工（塗布）

- ・下地補修が終了後、短毛・中毛ウーローラーもしくはマイクロファイバーローラー（毛丈13mm）等にて2回塗りで仕上げてください。速乾性ですのでオープンタイムは1～2時間程度で済みます。  
コンクリート、モルタル、漆喰等・塗布量：250～300 c c /m<sup>2</sup>  
リシン吹付、樹脂系塗料、土壁等・塗布量：300～350 c c /m<sup>2</sup>
- ・コンクリート、モルタル、漆喰などの下地の場合は、プライマーとしてSクリートアップ（ケイ酸塩系含浸剤）を事前に塗布することにより、接着増強、クラック抑制、防水性向上の効果が得られます。 一般的樹脂系塗料のリユートの場合はプライマー塗布の必要はありません。

## 5、オプション施工

### ① Sクリートクラック工法

- ・クラックをUカットせず目立たなく補修できます。(注入工法)
- ・コンクリートの表層劣化がありザラザラになっている箇所や、ヘアークラックの補修ができます。(表面被覆工法)

### ② ペガサビン・セルガード工法

- ・コンクリートの鉄筋の錆が懸念される場合は、コンクリート表層からペガサビンを塗布することで、防錆処理が可能です。塗布量：300～400 c c / m<sup>2</sup> (2～3回塗布)
- ・爆裂補修の際はペガサビン+ペガモルF A (セルガード工法) が有効です

## 6、注意事項

- ・施工可能な温度は5℃以上です。
- ・雨天での施工は避けてください。
- ・新築コンクリートでの離型剤の残留は極力除去してください。
- ・フッ素系塗料が施工されているコンクリートのリフォームの場合は付着しますので、フッ素塗膜をサンダーにて除去してください。
- ・コーキングの上には施工を避けてください。